

参加者の活動紹介 1

(公立大学法人 福知山公立大学 企画・地域連携課長兼入試・高大連携課長 小林憲彦)

北近畿コラボスペースの紹介 (会員数 169 人 (令和6年4月1日現在))

本学では、北近畿地域の産学公の各分野が抱える課題に対して、様々な立場や背景を持つ多様なステークホルダーが情報を発信、共有し、様々な情報やアイデアを蓄積、可視化することにより、新たな価値の創出や、地域課題の解決するため、令和5年2月から北近畿コラボスペースの運用を開始しました。

具体的には、民間企業、金融機関、公的機関、教育機関等が連携することにより、以下の成果の創出を期待しています。(連携を促進するツールとして Slack を活用)

- ①新商品開発 (または商品が有名になる)
- ②新しいビジネスモデルの構築
- ③企業の業績アップ
- ④北近畿立地企業のIT意識向上 (効率化による業績アップ)
- ⑤安心安全 (防災など)
- ⑥より暮らしやすい街へ ほか

現在は、北近畿コラボスペースの発展に向けて、会員数の増加やスペースの盛り上げなど、未来における成果の創出に向けた取組を進めています。

【令和5年度の主な取組】

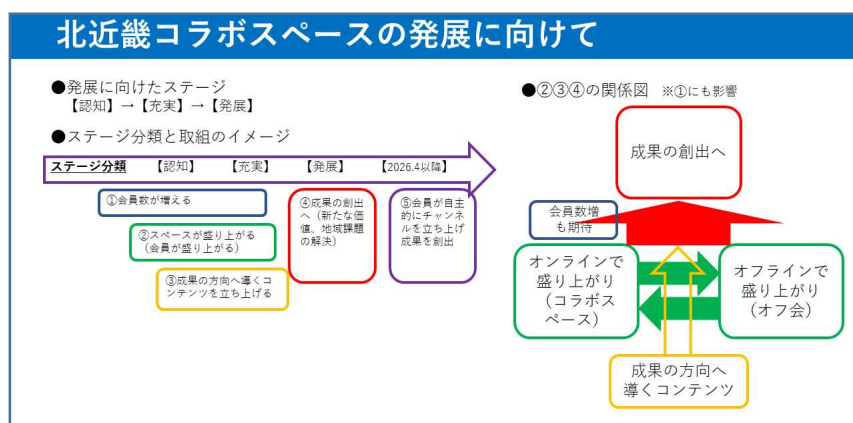
会員増加とスペースを盛り上げるための取組として、北近畿地域の自治体で現会員と加入予定者が参加する交流会を開催しています。令和5年度は、令和5年6月に宮津市、令和6年2月に綾部市で開催しました。

令和6年度には舞鶴市と豊岡市での開催を予定しています。

交流会をきっかけに、企業と学生が連携し、AIのビジネス活用に向けての取組に繋がりました。

また、北近畿コラボスペース上では、解決したい課題を持っていた会員が、外国人居住者の住みやすいまちをめざす「多文化社会をみんなで実現」チャンネルや変化する災害の形に対応するための「みんなで取り組もう地域の防災」チャンネル、本学学生にチャット GPT や AI に関する質問やお悩みを相談することができる「公立大生に ai の相談をしよう」チャンネルなどを立ち上げ、情報共有や課題解決に向けた取組が始まっています。

この紹介をご一読いただいた皆様には、ぜひ北近畿コラボスペースにご加入いただき、共に北近畿地域を発展させていけたらと思っています。



【入会はコチラから】 →

参加者の活動紹介 2

(京都府中丹広域振興局 農林商工部 農商工連携・推進課 商工労働観光係 藪内亮太)



▲ 中丹イノベーション推進プログラム

京都府中丹広域振興局は、中丹地域（福知山市、舞鶴市、綾部市）を所管する京都府の地方機関で、府民の皆様の窓口機能のほか、管内3市の様々な活動に対する支援や、広域にわたる地域課題解決の役割を担っています。

中丹地域の特性を活かした地域振興を図るため、地域の将来像や具体的施策を示した「中丹地域振興計画」に基づき、「若者が定着する持続可能な地域づくり」「絆と交流の地域づくり」「安心・安全に暮らせる地域づくり」を進めています。

当課では、中丹地域の企業に対して、新規事業の創出やビジネスマッチングに向けた企業間の交流・連携の機会を「中丹イノベーション推進プログラム」で提供するとともに、働く若者の交流の場「YOU 好会」を立ち上げ、職場内外での若者のコミュニティづくりに取り組んでいます。また、様々な産業の担い手確保のため、舞鶴高専等と連携し、子どもたちを対象としたものづくり体験学習や建設産業の体験型イベントを開催しています。

引き続き、若い世代が地元で定着し担い手として活躍できる持続可能な地域づくりを進めてまいりますので、皆様のお力添えをよろしくお願いいたします。

当課では、中丹地域の企業に対して、新規事業の創出やビジネス



▲ YOU 好会

活動報告 (舞鶴工業高等専門学校 内海 康雄特命教授)

CDW (Circular Design Week) 2023「土地に根ざした循環生態系の未来」は、循環型のデザインとそれを踏まえた活動について、情報を共有して活動の促進を目指しています。

(URL <https://cdw2023.re-public.jp/>)

今回は、鹿児島県のNPOを主とした循環型のデザインを実践しているプロジェクトの見学会と、2日間のワークショップが、1週間にわたって行われました。英語と日本語を逐次訳しながら進められました。いずれもトヨタ財団の支援を受けています。

舞鶴高専からはワークショップに2名が参加しました。1日目は、基調講演とトヨタ財団が助成している海外と連携するプロジェクトの紹介がありました。国内の活動とほぼ同じですが、対象範囲が広がるのと、各国政府とJICAなどとの幅広い連携などが行われています。2日目は、鹿児島県の活動や課題を数名からなるグループに分けて議論しながら紙面に書き込みました。話題があちこちに及ぶのですが、何とかまとめました。おしまいに各グループが発表して、コメントを頂きました。キーワードとして、活火山である桜島、自然の恵みを活かした食づくりとものづくり、企画・製造から廃棄そして再循環などが挙げられます。改めて各々の活動と位置づけの理解が進みました。



ワークショップでは、舞鶴未来の海プロジェクトの活動も議論の中で紹介しました。全体を通じて、我々のプロジェクトもかなり近い活動をしていると思いました。循環型デザインという視点から多くの示唆を頂きました。

我々2名を含めて、国内外から参加した皆さんが同じ方向の意識を持っていることが印象的でした。

